

拠点校の事業実施報告書

拠点校名：津山市立鶴山小学校

1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

- 4月 ・年間カリキュラム案を校内に提示し、校内での共通理解を進める

- 5月 ・5、6年生、ALTとHRTとの週1時間の授業を開始、公開授業について市教委と協議

- 6月 ・1日、12日 カリキュラム委員会（地域人材の福田聖子先生参加）
・21日 英語活動授業公開

- 7月 ・6日 カリキュラム委員会開催
・11日 校内研修（英語カリキュラム）
・eラーニング（8月末まで）

- 8月 ・10日 校内研修兼中道中学区英語教育推進協議会研修会（講師：松香洋子先生）
・20日 校内研修（講師：福田聖子先生）、第1回津山市小学校英語活動研修会参加
・21日 第2回津山市小学校英語活動研修会参加

- 9月 ・27日 カリキュラム委員会

- 10月 ・公開授業に向けて英語活動指導案検討
・16日 5年国際理解公開授業の高専留学生と打合わせ
・25日 第3回津山市小学校英語活動研修会で5-1,6-2公開授業
・30日 5-2,5-3国際理解教育授業

- 11月 ・14日 校内英語研修
・英語アンケート実施

- 12月 ・研究のまとめについて市教委と協議

- 1月 ・7日 カリキュラム委員会
・18日 アンケート結果について検討
・30日 6年生国際理解授業

- 2月 ・19日、29日 カリキュラム並びにCD編集会議、
・研究のまとめ、報告書作成

- 3月 ・4日 報告書、資料（指導案・CD）作成作業

2 本校における取組の具体的な内容

- 教員の指導力の向上のための取組について
 - ・先進校の視察を行い、指導方法やカリキュラムの研修や資料の収集を行った。
 - ・松香フォニックス研究所所長、松香洋子先生をお迎えして、近隣の学校にも参加していただき講座を開いた。
 - ・中道中ブロックの各校で外部講師を招いて校内研修を行った。参加できるときは、他校の研修にも参加した。

- ・校内研修や研究によって、英語活動への共通認識を持ち、教職員の意欲を高めた。
 - ・個人でもインターネットを利用してアクティビティの練習やリスニングの練習ができるeラーニングを夏休みに行った。
- 効果的な指導方法の工夫改善について
- ・学年や児童に合わせてカリキュラムを見直し、作り直して授業をした。
 - ・カリキュラムに合わせて、教材を作成し、教室整備を行うなど英語学習環境を整えた。
 - ・英語のコーディネーターを2名置き、ALTや担任との連絡調整や、カリキュラムの作成、変更を中心となって行った。
 - ・担任とALTとの効果的なTT指導について研究実践した。日案をHRT（ホームルームティーチャー）とALTとに分けて書き、担任が授業を主導しやすいよう工夫をした。
 - ・英語の月の歌を決め、全校で朝の会や帰りの会に歌うことで、毎日英語に触れる時間を作った。
- ALTや地域人材等の効果的な活用について
- ・ALTが週3回来校するので、英語であいさつしたり、分からないことを聞いたりでき、職員も児童も英語を使う機会が増えた。
 - ・地域の人材から、NPO法人イングリッシュサイズを主催している福田聖子さんに、カリキュラムについてのアドバイスや校内研修でアクティビティの研修をしていただいた。
- 児童の興味・関心等学習状況の変容の把握について
- ・全校アンケートにより、児童が英語活動をどのように感じながら英語活動に取り組んでいるのかを調査し、児童理解と考察を行った。
- その他（中学校との連携，ICTの効果的な活用等）
- ・カリキュラム作成や教材作成に中学校の先生も参加してもらった。
 - ・学区の小学校6年生全クラスが中学校の先生による英語活動の授業を受けた。
 - ・公開授業を小中両方で実施し、お互いが参加して協議を行った。
 - ・パソコン、スマートボード、インターネット等を利用した教材開発や授業を行った。

3 本校における取組の成果等

- 授業しながらカリキュラムを練り直し、中道中学校区の3小学校と中学校、ALTが協力して年間カリキュラム案（1～6年）を作成した。このカリキュラム案の資料集（日案・CD）を作成し、市内の小学校へ紹介した。
- 年間を通じて同じALTに来校してもらうことによって、ALTが児童の名前はもちろん、一人ひとりの得意、不得意や性格をとらえることができ、児童とのコミュニケーションも向上し、指導の効果がより上がった。
- どの学年も、英語活動のゲームやアクティビティを楽しみにしているが、学年が上がるにつれて話すことへの苦手感が少しずつ増えてくることがアンケートにより分かったので来年度の課題としたい。
- 6年生から中学校への接続をスムーズに行い、中学での英語嫌いを増やさないように中学校との連携を進めるために、一層のカリキュラムや授業の研究を進めることが課題である。

拠点校の事業実施報告書

拠点校名：玉野市立宇野小学校

1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

- 4月4日 研究推進委員会:本年度指導内容の検討・打ち合わせ
- 4月9日 校内研修 :本年度指導内容の確認・共通理解
- 5月21日 校内研修 :活動案(5月30日)の検討
- 5月30日 英語活動参観日:テーマ「英語劇をしよう」(5年・6年)
- 6月6日 英語集会に向けた授業実践
- 6月13日 英語集会に向けた授業実践
- 6月22日 英語集会に向けた授業実践
- 6月27日 英語集会(英語活動参観日を兼ねる)開催
- 7月4日 授業実践
- 7月22日 英語活動参観日:テーマ「スクールウォッチング」(5年)
「世界の国のあいさつ(国名・国旗)」(6年)
- 8月 4月～7月の実践のまとめ
9月以降の英語活動の教材研究 資料整理
- 9月19日 授業実践
- 9月26日 英語活動参観日:テーマ「自分の好きな服を着よう」(5年)
「もしもし あのね」(6年)
- 10月10日 授業実践
- 10月17日 授業実践
- 10月24日 英語活動参観日:テーマ「世界のファッション・ワークショップ」(5年)
「外国の人にインタビューをしよう」(6年)
- 11月7日 授業実践
- 11月21日 授業実践
- 11月28日 英語活動参観日:テーマ「大人の自分は何をしているかな?(職業)」(5年)
「道案内をしよう」(6年)
- 12月5日 授業実践
- 12月12日 授業実践
- 12月14日 授業実践
- 12月19日 英語活動参観日:テーマ「メリークリスマス」(5・6年)
- 1月9日 授業実践

- 1月16日 授業実践
- 1月23日 校内研修 :活動案検討(第5学年研究授業)
- 1月30日 市内公開研究授業(第5学年):テーマ「友達を紹介しよう」
授業反省会
- 2月6日 授業実践
- 2月20日 授業実践
- 2月22日 授業実践
- 2月25日 校内研修 :活動案検討(第6学年研究授業)
- 2月27日 授業実践
- 2月29日 市内公開研究授業(第6学年):テーマ「知ってもらおう!日本の文化」
授業反省会
- 3月 研究推進委員会:本年度の研究成果と課題について
報告書の作成, 来年度の研究について

2 本校における取組の具体的な内容

○ 教員の指導力の向上のための取組について

本校は、平成15年度から英語活動に取り組んでいる。今年度も「楽しくコミュニケーションする子ども 一心ひろがる英語活動」という研究テーマのもとに英語活動を校内研修の柱とし、特別支援学級を含む全学年が公開研究授業を行った。また、それに伴う指導案の検討と授業の反省の会をもつことにより指導力の向上をめざしてきた。

さらに、本年度は、例年の参観日に加え、毎月1度英語活動参観日を設定し、保護者や市内公立学校教員を対象に広く公開し、指導を仰いだ。

○ 効果的な指導方法の工夫改善について

(1) 本校では、英語活動のために高学年は35時間を充てている。主に、各月のテーマに合わせて1単位時間45分のロングの英語活動と、その英語活動を支えるための言葉や会話文・歌などを練習するためのショートの時間を合わせて35時間になるようにしている。

また、全校で1単位時間の活動の流れ(参照①)を統一しており、子どもが見通しをもって活動できるようにしている。

(参照①) <Longの活動の流れ>

活動内容	留意点
<p>1 <u>はじめのあいさつをする。</u> Are you ready? Yes! Let' s start EP Time! Hello. How are you doing? Pretty good!</p>	<p>1 はじめに, “Are you ready? Yes! Let' s start EP Time!”とみんなで声を出すことで, ウォーミングアップをする。</p>
<p>2 <u>歌を歌う。</u> 今月の歌やテーマに合った歌を歌う。 (歌は本時の活動中, 最も望ましい場で歌う。)</p>	<p>2 リズム感があり, 身体を動かせるものや, 歌詞にくり返しが多く覚えやすいものなどを選び, 楽しい雰囲気作りをする。</p>
<p>3 <u>5つのめあての確認をする。</u> “Eye Contact” “Listen Carefully” “Big Voice” “Big Smile” “Big Gesture”</p>	<p>3 活動前に個人のめあてを決めて, めあてカードをネームにはっておく。</p>
<p>4 <u>Tiny Talk を聞く。</u> 本時で扱う単語を使い, テーマに沿った簡単なスピーチ等を聞く。</p>	<p>4 簡単なスピーチや絵本の読み聞かせなどをして, 静かに英語を聞く場を設ける。本時のテーマへの導入にもなる。</p>
<p>5 <u>単語や基本的な会話文の発音練習する。</u></p>	<p>5 英語特有のリズムやイントネーションがよく分かるように発音する。場合によってはチャンツも使う。</p>
<p>6 <u>練習した単語や会話を使ってゲームを楽しむ。</u></p>	<p>6 <コミュニケーションを図る場> たくさんの方の友達やALT, GT, HRTなどと, 楽しく交流することができるゲームを工夫する。</p>
<p>7 <u>活動の振り返りをする。</u> How was today? 本時の活動について振り返る。 ALTやGTの感想を聞く。</p>	<p>7 本時での自分の活動を振り返るとともに, 友達のがんばりにも目を向けるようにする。ALTやGTは, 英語で子どもたちのがんばったところを称賛する。</p>

(2) 年間計画を見直すことにより, 各学年の積み上げ状況を確認したり, 指導方法を改善したりした。

(3) 本校では英語活動を通して, 英単語や会話文を身につけること以上に, いろいろな人とかかわりをもつことができるようになることを重視している。そのため, 子どもたちが主体的に多くの人とかかわりをもとうとするようなコミュニケーションゲームの開発に取り組んでいる。コミュニケーションゲームでは, 相手を選ばず, 多くの人とかかわることができるように「フレンズカード」(参照②)を持ち, お互いにシールを貼り合う活動を通して, 積極的に声かけができるようにしている。

(参照②) <フレンズカード>

「What do you want to be? (何になりたいの?)」ゲームをしよう
6年名前

<p>A</p> <p>Hello, (相手の名前)</p> <p>What do you want to be? (何になりたいの?) ワット ユー ワン トゥー ビー</p> <p>I want to be a (職業) (～になりたいんだ) マツナシ ナース 助産婦さん midwife</p> <p>Your welcome. Good-bye. (どういたしまして さようなら)</p>	<p>B</p> <p>Hello, (相手の名前)</p> <p>I want to be a (職業) (～になりたいんだ) アイワン トゥー ビー</p> <p>How about you? (あなたは?)</p> <p>Thank you. Good-bye. (ありがとう さようなら)</p>
---	---

コミュニケーションできた友達からシールをもらいましょう。

名前	ようこ	かな	さき	まりん	あや子	みる	かー	できた人数
職業	ナース	ドッグリバー	ドクター	スタイリスト	バレーボール選手	バレーボール選手	コンピュータ	2/人
名前	しん	文かこ	くう	ゆい	もとき	みゆき	かいが	
職業	サッカー選手	ミュージシャン	ほく場の人	ナース	ほくじょう人	パットリコ	大工	
名前	りょう	あさか	ゆめ	ゆうわ	ユミ	れい子	ソア	
職業	野球選手	スノー	ナース	アイスレッサ	ドクター	カッパ	ミュージシャン	

(5) “Eye Contact” “Listen Carefully” “Big Voice”に加え、今年度は、“Big Smile” “Big Gesture”を活動時の子どもたちのめあてとし、活動の終わりには、次のような観点で振り返りを行っている。

- ① 自分ががんばったこと (自分のめあてについての振り返り)
- ② 友達のよかったこと
- ③ うれしかったこと

○ ALTや地域人材等の効果的な活用について

本校では、以前から市内の小学校を巡回しているALTと本校で独自に募集した地域のゲストティーチャー(GT)の協力を得て英語活動に取り組んできている。今年度は、本事業のために、高学年専用のALTを派遣していただき、主に、英単語の発音やスキットでの会話文の表現方法等について指導していただいた。

○ 児童の興味・関心等学習状況の変容の把握について

子どもたちは毎月、ロングの活動(月末のコミュニケーションゲームをする活動)の後に「ふりかえりカード」(参照③)を書いている。それを集計することにより、子どもたちの興味や関心等を把握するとともに、活動内容の反省を行っている。

また、子どもたちの感想等を参考に、次時の活動がより子どもたちにとって意欲的に取り組むことができる内容になるよう考慮しながら、計画立案に努めている。

(参照③) <ふりかえりカード>

高 ふりかえりカード 1月30日 水曜日 6年 組 NAME					
★テーマ 『ワールド フェスティバル』					
★自分の活動のめあて					
学習のあとで反省しよう 4 3 2 1					
がんばること	目：Eye Contact	表情を見て、気持ちを考えながら活動できた	相手の目をいつも見た	相手の目をほとんど見た	相手の目を見るようにがんばった
	耳：Listen Carefully	相手の表情を見ながらしっかりと聞き、うなずいたり、共感しながら聞いた	わかる言葉にはうなずいたりしながら、しっかりと聞いた	人が話しているときには、目を見て静かに聞いた	人の話をしずかに聞こうとがんばった
	声：Big Voice 動：Big Gesture	ジェスチャーをつけながら、はっきりとした声で話した	わかりずくはっきりした声で話した	相手にわかるような声で話した	みんなといっしょに、あいさつをしたり、歌を歌ったりした
	人：Communication 笑：Big Smile	人をよばずに、多くの人と活動のめあてに向かって話すことができた	たずねたり歌えてあげたりしながら、進んでたくさんの人と話した	自分から声をかけて楽しくゲームができた	みんなとゲームをすることができた
	言葉：Language	意味がわかり、ほとんど言うことができた	ほとんど言うことができた	半分くらいは言えるようになった	少し言えるようになった
★あなたが楽しくできたことはどれでしょう？(いくつでも、○をつけましょう。)					
<input type="checkbox"/> 歌 <input type="checkbox"/> Tiny Talk <input type="checkbox"/> 言葉の練習 <input type="checkbox"/> クイズ HWT ()					
★あなたがもっとがんばろうと思ったことはどれでしょう？(いくつでも、○をつけましょう。)					
<input type="checkbox"/> 歌 <input type="checkbox"/> Tiny Talk <input type="checkbox"/> 言葉の練習 <input type="checkbox"/> クイズ HWT ()					
★自分ががんばったこと、こまったこと、もっとしてみたいこと、心に残ったこと、友だちの良かったところなどを書きましょう。					

○ その他 (ICTの効果的な活用等)

- (1) 週1回、朝の学習の時間「Hello Time」に本校で作成した5分程度の英語番組を視聴している。
- (2) 週1回、給食放送の時間に高学年向けの英語番組を視聴している。

3 本校における取組の成果等

本校では1年生から英語活動に親しんできているため、高学年でもほとんど抵抗なく、楽しみながら英語活動に取り組むことができる。

また、6年間を見通した年間計画を作成していることにより、子どもたちは徐々に簡単な単語や会話文の力を身につけてきており、高学年になると既習の会話ならALTと緊張しながらも自分の力でコミュニケーションしようとする姿が見られるようになってきた。

修学旅行での「外国の人にインタビューをしよう」の活動では、積極的に話しかけたり、言葉が通じないときにはジェスチャーを使ったりして、どうにかコミュニケーションしようとする姿が見られるようになった。

また、日本文化を広く外国の人へ伝える活動に取り組むことで、子どもたち自らも茶道や水墨画などの日本文化を体験する時間をもつことができた。

なお、今年度は本事業の取組により、毎週1単位時間の英語活動をするようになったため、時間割を大幅に変更することになった。

また、依頼していたALTの最初の来校が5月末日になったため、予定していた英語活動にも支障をきたした。来年度は、高学年の英語活動の計画を見直し、ALTの有効活用に一層努めたい。

拠点校の事業実施報告書

拠点校名：総社市立昭和小学校

1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

- 4月 研究計画の立案，教材研究
- 5月18日 市内公開の授業研究会の開催：2年（市教委）
- 5月28日 市内公開の授業研究会の開催：4年（講師，市教委）
- 6月1日 市内公開の授業研究会の開催：5年（講師，市教委）
- 6月15日 市内公開の授業研究会の開催：情緒特別支援学級（市教委）
- 6月21日 市内公開の授業研究会の開催：6年（講師）
- 6月22日 市内公開の授業研究会の開催：3年
- 6月29日 市内公開の授業研究会の開催：1年（市教委）
- 7月6日 市内公開の授業研究会の開催：知的特別支援学級（市教委）
- 7月 1学期実践のまとめ
- 8月6日 教材研究，指導法の研究（講師）
- 8月21日 指導案の検討（講師）
- 9月 授業実践，教材研究
- 10月 授業実践，教材研究
- 11月2日 総社市教育委員会指定研究発表会の開催：全学級授業公開，研究発表，協議，講演，市内小学校全教員外320名参加（講師，市教委）
- 12月 授業実践，教材研究
- 1月 授業実践，教材研究
- 2月 授業実践，ICTを活用した教材作成
- 3月 授業実践，教材の整理

2 本校における取組の具体的な内容

- 教員の指導力の向上のための取組について
 - ・ 指導用図書や教材を購入し，教室英語の種類と効果的な使い方，指導内容にあった歌・ゲームの収集と指導法を中心に全教職員で研修を行った。
 - ・ 教材研究と授業研究を行い指導法の研究を行った。先進校の教員や大学教授を講師として招聘し，実践的な指導法や理論について研修した。全学級英語活動に取り組むこととし，1学期には，全学級研究授業を行い，講師を招聘して指導を受けるとともに，市内小学校教員や中学校英語科教員の参加を得て研究協議を行い，指導力の向上を図った。
 - ・ 先進校視察や研究発表会・研修会・セミナー等の参加を計画的に行った。
- 効果的な指導方法の工夫改善について
 - ・ 研究仮説を「英語活動において，指導と評価を工夫することにより，聞きたい・話したいという気持ちを喚起し，英語を使って伝え合う楽しさを体験させれば，コミュニケーションを図ろうとする意欲や態度が育つであろう。」と設定し，「場面設定の工夫」「教材・教具の工夫」「体験的活動の工夫」「評価の工夫」の4つの視点から研究に取り組み，指導方法を工夫改善した。特に，英語を使って伝え合う楽しさを体験できるように，あいさつ，歌，遊び，ゲームの指導に重点をおいて取り組んだ。
- ALTや地域人材等の効果的な活用について
 - ・ 全学級，担任主導の指導形態を取り，ALTとのティームティーチングと学級担任単独での授業を隔週で行った。ALTとのティームティーチングの場合は，事前に打ち合わせを行ってアイデアを出し合い，ALTとの役割分担を決めて授業を行った。英語のネイティブな発話や担任とのデモンストレーション，ゲームの紹介，母国での生活様式や英会話の紹介などをしてもらった。
 - ・ 授業での児童の評価について，指導目標の面を学級担任が評価し，技能や態度の面を英

語でジェスチャーたっぷりにALTが評価し、称揚した。

- 児童の興味・関心等学習状況の変容の把握について
 - ・ 指導目標に対する評価規準を明らかにし、関心・意欲・態度について、教師の観察による評価を毎時間行い、児童の実態を把握した。
 - ・ 本校独自にアンケートを作成し、4月、7月、11月の年3回定期的に実施した。今後も継続して実施し、学習状況の変容を把握したい。
- その他（中学校との連携、ICTの効果的な活用等）
 - ・ 市教委より小中連携校に指定され、学区の中学校英語科教員が本校との兼務になっているため、毎週1回本校に勤務している。ALTとの通訳をして学級担任との打ち合わせを行ったり、ティームティーチングで授業を行ったりした。こうして、小学校での英語教育の様子を知ってもらい、中学校での英語教育がスムーズに行えるようにした。また、小学校の教員は中学校英語科の授業参観を行い、中学校での英語教育の様子を知るとともに、中学校英語科教員の専門性を学びながら中学校との連携を行った。
 - ・ 指導に必要なフラッシュカードをデジタルコンテンツから印刷し、ラミネートして活用した。デジタルコンテンツにない物はコンピュータのお絵かきソフトやプレゼンテーションソフトを使って作成した。英語の歌やチャンツ、英語での読み聞かせの指導では、CDをCDプレーヤーで再生したり、DVDをテレビに再生したりして活用した。学級担任単独の授業では、ALTの発話をビデオで撮影し、DVDプレーヤーで再生して活用した。コンピュータでデジタルコンテンツを作成し、プロジェクターと電子情報ボードで活用した。岡山県総合教育センターのホームページ上で配信されているデジタルコンテンツをコンピュータで活用したり、他のインターネット上で配信されているデジタルコンテンツも活用した。

3 本校における取組の成果等

- 教員の指導力の向上について
 - ・ 研究に取り組むまでは、年間10時間程度の英語活動をALTが行っていたが、学級担任主導で週1回行うようにし、研究を積んでいくうちに、教員の指導力が飛躍的に向上し、学級担任1人でも授業が行えるようになり、現在では、自信を持って授業を行っている。講師の大学教授から、全員中級レベルの指導力をマスターしたと評価された。

- 児童の興味・関心等学習状況の変容について (％)

	英語の時間が楽しみ			英語の時間が好き		
	4月	7月	11月	4月	7月	11月
1年	93	93	93	93	93	93
2年	100	100	100	100	100	93
3年	90	100	100	95	100	93
4年	90	95	100	90	95	100
5年	84	91	95	72	76	95
6年	85	85	100	85	90	100
特別支援	100	100	100	66	100	75

実施したアンケート調査の結果から、児童の英語活動への興味・関心が高いと言える。

- 保護者の意識の変化について

保護者へのアンケート調査の結果では、本校が英語教育に取り組む前に小学校での英語教育が不要と考えていた保護者が28%いたが、現在では6%と大幅に減少した。英語活動の授業参観での児童の様子や教師の指導の様子、家庭で英語の歌を歌ったり英語を話す児童の様子から、小学校での英語教育の必要性を感じるように変容した保護者が21%もあり、全体では、93%の保護者が必要だと考えている。また、30%が就学前から、49%が小学校低学年からの英語教育の必要性を感じている。

拠点校の事業実施報告書

拠点校名：備前市立伊里小学校

1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

月	内 容
4月～ 5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ A L T の選任 ・ A L T との打合わせ ・ 事業実施の方向付けと確認 ・ 前年度までの英語活動の取組についての検討
6月～ 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ A L T との授業実践 ・ 教材の活用についての研修 ・ 教材の開発についての研修 ・ I C T 活用についての研修 ・ 児童対象の実態調査の実施 ・ 年間指導計画の立案にかかわる研修
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校英語活動研修会の開催（講師 中国短期大学教授 名合智子先生） ・ 先進校視察による研修，及び資料収集（千葉県成田小学校） ・ 先進校視察による研修，及び資料収集（埼玉県粕壁小学校） ・ 先進校視察による研修，及び資料収集（広島県西条小学校） ・ 先進校視察による研修，及び資料収集（島根県雲城小学校） ・ 英語研修会参加（中国短期大学）
9月～1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ A L T との授業実践 ・ I C T を活用した授業実践 ・ 教材教具の作成 ・ 指導法の研修 ・ 年間指導計画の立案と検討 ・ 英語教室の環境整備 ・ 児童対象の実態調査の実施 ・ 研究集録の作成
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ A L T との授業実践 ・ I C T を活用した授業実践 ・ 小学校英語活動発表会の開催（講師 岡山大学教授 高塚成信先生）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一年次のまとめ ・ 二年次の取組への方向付け

2 本校における取組の具体的な内容

(1) 教員の指導力の向上のための取組について

英語活動にかかわる第5，6学年担任が先進校視察を行い，理論的な研修を行うとともに，授

業実践に生かすことのできる具体的な指導法についての研修を行った。

また、日々の授業実践における成果や課題について、教員同士が協議できる場を頻繁に設定した。その中で出された改善点を次の授業場面では積極的に取り入れていくように指導計画の改善を図った。

(2) 効果的な指導方法の工夫改善について

指導計画の立案にあたっては、第1年次の年間指導計画（35時間分）を作成した。授業担当の4名が共通の取組を行うことができるように、HRTとALTの動きが具体的に記述している学習指導案を作成した。

1単元を3時間で構成する方法を開発し、すべての児童が英語活動に対して積極的に取り組むとともに自信や達成感のもてるような指導方法の改善を行った。

3時間の授業展開を定型化する方向での工夫を行い、児童が授業展開の見通しをもって活動に集中できるような指導計画を立案した。

体験的活動の充実を図り、ダイアログの効果的な習得という観点でアクティビティやゲームを選択し、様々なダイアログで応用可能な体験的活動を明らかにした。

(3) ALTや地域人材等の効果的な活用について

全授業をALTとのTTで行い、HRTがT1、ALTがT2を担当した。児童が本時の課題を明確につかむことができるようにHRTとALTが連携を図り、ダイアログ活用の状況設定を寸劇風に行った。

授業の終末では、フリートークタイムを設定し、ALTに対して児童が自由に質問することのできる場を設定した。また、フリートークタイムでは、外国の生活や文化、自然環境についての話題も提供してもらえるように事前に依頼しておいた。

(4) 児童の興味・関心等学習状況の変容の把握について

英語活動にかかわる児童の意識の変容を把握するために、7月と12月に実態調査を行った。今後の取組に生かすことができるように記述式の項目も取り入れ、幅広い調査項目を設定した。調査結果は教員が集計分析を行い、これまでの取組について反省するとともに今後の課題を明確にし、さらなる指導法の工夫を重ねていくことにした。また、保護者に調査結果を知らせ、保護者からの意見や要望も受け入れていくことにした。

(5) その他（中学校との連携、ICTの効果的な活用等）

中学校の英語担当の教員から指導法や教材について指導を受け、指導計画の改善や教材の見直しを行った。また、英語活動研修会に参加してもらい、小中連携の必要性や課題についての共通理解を図る機会ももった。今後はお互いに授業を参観し合う機会を作り、日常的に意見交換ができるようにしていくことを確認した。

児童が英語活動に親しむことができるようにICTの効果的な活用のあり方を探った。Web上のデジタルコンテンツの活用も積極的に行い、本校の実態にあったICT活用マニュアルにまとめた。

3 本校における取組の成果等

(1) 成果

- ・ 年度当初、最初はあいさつの型を示し、すべての児童が抵抗なくあいさつをすることができるようにしたことで、ALTと気軽にあいさつを交わすことができるようになってきた。慣れるにしたがってダイアログの数を増やし、天気や体調、週末の過ごし方などあいさつの内容を高めることもできるようになってきている。また、あいさつをするときALTに対して笑顔で発話している児童を称揚したことで、少しずつ表情も意識してあいさつをしている児童が増えてきた。意識調査でも「あなたは英語活動が好きですか」という問いに対して、84%の児童が「好き、どちらかと言えば好き」と回答している。また、多くの児童が「ALTと会話をしたりアクティビティをしたりすることを楽しみにしている」と回答している。
- ・ 新出単語の学習ではフラッシュカードを活用し、その使い方も場面によって様々な工夫を行った。また、フラッシュカードと同じイラストのカルタを使って単語の定着を図ったので、児童はスムーズにカルタゲームに取り組むことができた。カード類は使い方一つでいくつものアクティビティやゲームに対応できるのでとても効果的な教具であると分かった。

- ・ A L Tの発音を十分に聞くことができる時間を確保するために、1単元のうちの2時間は大型絵本の読み聞かせの活動を取り入れた。2時間続けて同じ絵本にすることで、ところどころA L Tと一緒に発話する児童もいた。また授業過程の終末に位置づけたため、A L Tと児童との一体感の雰囲気の中で授業を終えることもでき効果的であった。ほぼすべての児童が「絵本の読み聞かせが楽しんだ」と答えている。
- ・ 新出単語の学習においては、まずA L Tの発話をしっかりと聞くことから始めた。十分に聞く時間を保証しないですぐに発話させようとすると、苦手意識をもっていたり不安に感じていたりする児童はなかなか声が出せなかった。そこで、十分に聞かせたあと、A L Tのあとをリピートさせたり、グループ単位で発話させたりするなど、「全体から個へ」のステップを進めた。「自分から進んで発音したり一生懸命A L Tの先生や友達と会話をしたりしていますか」という問いに対しても82%の児童が「よくしている、だいたいしている」と回答している。
- ・ アクティビティの途中でどう言えばいいのか困ったり、答え方が分からなくなったりしたときにはA L Tに“Excuse me”と言ってから質問すればいいことにしていたので、自分から進んでA L Tにたずねることができるようになった。いつもH R Tが間に入るよりも、「このようなどときにはこうたずねる」という型を示しておくこともコミュニケーションの力を付ける上で効果的な手立てであると分かった。「自分から進んで単語の発音を聞いたり一生懸命A L Tの先生や友達の会話を聞いたりしていますか」という問いに対しては、95%の児童が「よくしている、だいたいしている」と回答している。
- ・ 指導目標と評価基準をシンプルにしたことで、評価方法を工夫しやすくなり、児童のよいところを進んで評価・称揚することができるようになった。英語の発話にかかわる活動の評価をA L Tが行い、声の大きさや表情など意欲面をH R Tが行うなど事前に打合せをしておくことで、授業中の評価がスムーズにできるようになり、児童への称揚もタイミングよくできるようになった。「英語活動の中でうれしいときはどんなときですか」の問いに対しては「A L Tの先生にほめてもらったとき」という答えが最も多い。

(2) 課題

- ・ 今年度は「第1年次英語活動年間指導計画」を作成した。来年度は「第2年次英語活動年間指導計画」を新たに作成し、第6学年で実践していくとともに、「第1年次英語活動年間指導計画」も児童の発達段階や興味、学習経験などをふまえてさらに検討していきたい。
- ・ 「今行われている英語活動の内容をあなたはどのくらいできていますか」という問いに対して約20%の児童が「ほとんどできていない、あまりできていない」と答えている。研究主題の具現化のためにめざす児童像を設定したが、到達目標や評価基準との関連から再検討を行い児童のコミュニケーション能力の育成と英語活動に対する関心を高める指導を課題として取り組んでいきたい。
- ・ 今年度はH R TがT1となり、H R Tが主導で授業を進めた。そのことで児童の実態に合わせた指導ができるようになったが、扱うダイアログやアクティビティによってA L Tとの連携の仕方が異なるので、より綿密な打合せをしていきたい。
- ・ 今後H R T単独で指導を行う場合を考慮して、A L Tの発話をDVD化したりデジタルコンテンツ化したりするなど、さらなるICTの活用を工夫していきたい。

拠点校の事業実施報告書

拠点校名：赤磐市立軽部小学校

1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

学 期	月 と 主な学校行事	実施した事業経過
1 学期	4 月 始業式 入学式 全国学力テスト 参観日 家庭訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・推進事業について校内で共通理解 ・推進事業について英語講師と年間を通した打ち合わせ ・基本的な方針の協議とカリキュラムの決定 ・テキストの選定と購入
	5 月 新入生歓迎行事 参観日 知能・学力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた方針の見直し ・英語講師とのTTによる指導法について打ち合わせ ・授業公開に向けた準備
	6 月 修学旅行 全校ふれあい行事 海事研修 水泳 器楽・マーチング 水泳特別練習(放課後)	<ul style="list-style-type: none"> ・CD, DVD教材の選定 ・英語講師との指導法についての相談 ・授業公開 ・授業公開の反省と今後の授業展開について英語講師と相談 ・愛知県に研究視察
	7 月 終業式 個人懇談 市水泳記録会 東部地区水泳記録会 器楽・マーチング	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の実践についての総括
2 学期	9 月 始業式 体育祭	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の実践について英語講師と打ち合わせ
	10 月 参観日 市陸上記録会 東部地区陸上記録会	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた方針の見直し ・新しいテキストの選定 ・CD, DVD教材と書籍, ワークブック類の購入
	11 月 市音楽発表会 水島校外学習 音楽鑑賞会 学習発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・HRT主導による学習方法について英語講師と相談 ・基本的な学習スタイルの年間計画化の相談
	12 月 個人懇談 終業式	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府に研究視察 ・授業公開に向けて英語講師と指導法についての相談
	1 月 始業式 参観日 ペース走・なわとび	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいテキストの購入 ・授業公開に向けての準備 ・年間指導計画案, 内容系列表案, 全体計画案の完成
	2 月 参観日 中学校1日体験入学 ペース走・なわとび	<ul style="list-style-type: none"> ・広島県に研究視察 ・埼玉県に研究視察 ・矢掛町に研究視察 ・備前市に研究視察 ・授業公開 ・今年度全般における推進事業の課題と次年度に向けての話し合い
	3 月 6年生を送る会 参観日 卒業式	

2 本校における取組の具体的な内容

○教員の指導力の向上のための取組 効果的な指導方法の工夫改善について

本校は、平成15年から平成18年度までの4年間を、旧赤磐郡赤坂町教育委員会と赤磐市教育委員会に

よって週1時間ネイティブスピーカーの英語講師が配置され、低学年・中学年・高学年に分かれて英語活動を行ってきた。また、今年度は文部科学省による「小学校における英語教育等国際理解活動推進事業」の拠点校として、高学年において週1時間第5学年と第6学年別々に英語活動を行った。

これまでの活動形態がネイティブスピーカーの講師主導だったこともあって、本校教員の指導力はなかなか高まらないでいたが、本年度から互いの授業を見合ったり、低学年や中学年ではALTとの打ち合わせを綿密に行ったりすることによって、「子どもたちが英語嫌いにならないようにしたい」、「これだけたくさんの時間を使うのだから、将来的に英語が使えるようになってほしい」、「高学年になって英語活動に困らないように基盤をつくっておきたい」などの思いや願いが教師の中に生まれてきた。

低学年・中学年においては、自主的に英語活動を国際理解活動の中で展開するだけでなく、DVDやCD、またスマートボードなどのICTを使って積極的に指導法の工夫・改善に努めた。

また、高学年においては、研究視察を積極的に行って先進校の豊富な研究成果を持ち帰ったり、HRT主導の英語活動の取組を模索したりするなど、次年度に向けて準備を進めている。

○ネイティブスピーカーの英語講師の効果的な活用について

ネイティブスピーカーの英語講師は、赤磐市内在住で地域のことについてよく知っているとともに、日本での生活が長いこともあって日本語が非常に堪能で、コミュニケーションがとりやすい。また、自身が指導法に確固とした信念を持っていて、本校教員は多大な示唆をいただいている。

英語講師の専門的な知識や指導法をしっかりと取り入れながら、十分打合せをし、担任が中心となって、子どもたちが楽しみながら活動に取り組むことのできるTTの在り方をさらに検討したい。

○児童の興味・関心等学習状況の変容の把握について

今年度の5・6年生には英語活動が好きな児童が多く、授業中の発音の声が大きかったりネイティブスピーカーの講師にいただいたテキストに則したCD教材を帰宅してからも聞いて英語に慣れようとしたりするなど、前向きで楽しみながら英語活動に取り組んでいる。今年度は、さらにHRTによる英語活動を展開したこともあってか、英語活動を心待ちにする児童の数は、アンケートを実施した結果からも昨年度に比べて増加してきていることが分かる。そしてその背景には、子どもたちが英語での「話す力・聞く力」を徐々に習得してきていることが大きく影響していると考えられる。

この成果を受けて、より楽しみながら英語表現にふれることができるような活動形態や指導法の改善に取り組んでいきたい。

○その他（中学校との連携、ICTの効果的な活用等）

2月初旬に赤磐市内の小中学校を対象にして第6学年の英語活動を公開したところ、多くの中学校英語担当教員が参加し、研究協議でも積極的な発言が続いたこともあって、有意義な意見交換が行われた。その場で、次年度は小・中学校で互いに授業を公開しつつ研究を深めていこうとの方向性がまとまりつつあったので、ぜひ実現させていきたい。また、スマートボードやプレゼンテーションマウスを授業の中で使ってきており、次年度はこれらのICTをさらに効果的に使うことができるように話し合っていきたい。

3 本校における取組の成果等

本校がこの5年間で培ってきた英語活動の様々な活動形態や指導法について、年間指導計画にまとめることができた。さらに、総合的な学習の時間の中で英語活動がどのような位置づけになるかを示した内容系列表を作成したことは、現行の学習指導要領の中で英語活動を行っていくことの難しさと有意義さを浮き彫りにすることとなり、同時に次年度に向けて課題がはっきりしてきた。

また、今年度になってより活発に行ってきたICTを使った指導法や、ネイティブスピーカーの英語講師によるアプローチを基盤として、より楽しみながら英語にふれる活動形態や指導法を、次年度の研究に生かしていきたい。さらに、これらの今年度の成果を、さらに深めたり広めたりすることによって、児童がいきいきと英語活動に取り組みながら、英語表現も着実に身に付いていくような実践のありかたを追求していきたい。

そして、拠点校として積み上げてきた成果を市内の小・中学校に広めていくことで、地域をあげた英語活動の素地作りや指導法・指導形態の開発、さらには目前にせまった外国語活動導入に向けた本校のカリキュラムの開発をしたいと考える。

拠点校の事業実施報告書

拠点校名: 岡山県美作市立英田小学校

1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

一学期	4月	研究推進委員会 年間計画の立案と検討を行う。 A L Tとの打合せ 本年度の指導内容について打合せを行う。
	5月	校内研修 年間指導計画の確認を行う。
	7月	研究推進委員会 A L Tの交替に伴い、1学期の授業実践についてのまとめを行う。
休み	8月	授業実践委員会 テレビ会議システムの授業計画について検討する。
二学期	9月	A L Tの交替に伴う打合せ 2学期、3学期の指導内容について打合せを行う。 校内研修 A L Tによるクラスルームイングリッシュの指導を受け、その後、英語活動を体験。
	10月	テレビ会議システムによる英語活動実施 10月～12月で合計10回、第5学年を対象に実施。
	11月	美作市小学校英語活動研修会へ参加（美作市役所作東総合支所） 「小学校英語活動の充実にむけて」と題した、県総合教育センターの小寺邦彦指導主事の講演を聞き、英語活動を体験する。その後、美作市内の英語活動担当者による各校の英語活動の実施状況、実施上の課題等についての情報交換を行う。（市教委主催） 連携協力委員会（英田中学校） 小・中学校間の連携（授業交流）についての計画と打合せを行う。 授業公開 テレビ会議システムによる英語活動の授業を公開し、岡山市立西小学校の藤井佐代子先生の指導・助言を受ける。
	12月	テレビ会議システムによる他県小学校との交流授業 合計2回実施し、児童の意識調査を実施する。
三学期	1月	評価委員会 評価方法の検討及び分析を行う。また、言語コミュニケーションの分析による授業の評価の検討を行う。 研修視察（福岡県大牟田市）
	2月	研修視察（岡山市） 授業実践委員会 授業公開にむけて、A L Tと指導計画、指導法について打合せを行う。 校内研修 ノートルダム清心女子大学の伊藤豊美准教授を招聘し、「外国語活動導入の考え方」についての講話を聴く。 研究推進委員会 本年度の研究のまとめ、報告書の作成に向けて協議。 校内研修 今年度の研究の成果と課題、来年度の研究について協議。
	3月	授業公開 第5学年 「〇〇さんの好きなものを尋ねよう」 美作市内小・中学校教員に参観してもらう。 美作市小学校英語活動研修会へ参加 本校第5学年が授業公開、本校の英語活動について紹介、研究協議を行う。その後、県総合教育センターの小寺邦彦指導主事の指導を受ける。（市教委主催） 研究推進委員会 本年度の研究のまとめ、報告書の作成を行う。

2 本校における取組の具体的な内容

(1) 教員の指導力の向上のための取組について

・校内研修による授業実践力の向上

A L Tからクラスルームイングリッシュの指導を受け、その後、英語活動を体験した。児童になりきって行う研修で授業実践力の向上につながった。

・授業公開による指導力向上

先進校の教諭に授業参観後ご助言をいただいた。基本的な指導過程など授業の基本的な指導法の基礎を学ぶことができた。

・授業分析法による評価

英語活動では子どもの発言（output）と教師の発言（input）のバランスが重要である。本校では言語コミュニケーション分析による授業分析法^{*1}を用い、ビデオ録画したすべての授業を見ながら子どもの発言と教師の発言をカテゴリーに分け、それぞれのカテゴリーの発言率の比を出してその授業における教師の発言率と子どもの発言率を数値化し、その授業の output と input のバランスが分かるようにした。これを授業者に提示し、例えば、子どもの output を増やすことを促すなど評価の客観資料として活用した。その例を図1と図2に示す。

図のように最終結果は児童の「顔グラフ」として示され、教師の発言は耳の大きさ（教師の発言が多いほど子どもの耳が大きくなるしくみ）に対応し、子どもの発言率は口の大きさに対応するようにした。

図1は、初期のころのA L Tのもので、ゲーム等を一生懸命説明しようとして教師の発言が多く、この図を見せながら、「説明を少なくして子どもの output を増やすよう」アドバイスした。その結果、図2に示すように子どもの output を増やすように授業を行い、顔グラフは口が大きくなり、耳は小さくなった。

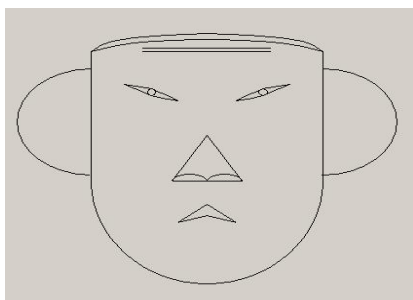


図1 改善前の授業の顔グラフ

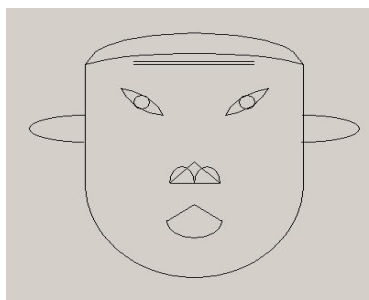


図2 改善後の授業の顔グラフ

子どもの発言率という客観資料を提示することで、授業者に対して指導力の向上を実感させることが可能となった。

(2) 効果的な指導方法の工夫改善について

・基本的な活動過程の作成

先進校の視察などを通し、本校の英語活動の1時間の基本的な活動過程を考えた。英語活動が体育の授業に類似している点に注目し、歌やゲームなどの初期段階の導入（ウォームアップ）や子どもの発声を運動量に例えて、その運動量を確保するなど実践的な授業展開のイメージ化が可能になった。

・教材教具の工夫および環境整備

絵本やインターネットによる教材のリアルタイムの提示など教材教具の工夫について検討した。また、提示用のカード等もパソコン等により作成した。これらの教材を今後も作成し、Webページ等で市内の小中学校にも活用できるようにするのが次年度の課題である。

(3) ALTや地域人材の効果的な活用について

・HRTとALTの役割、効果的なTTの在り方についての研究

本校では主にA L T主導の授業であったが、本年度は担任中心の指導を重要視し、A L Tとの

*1 近藤 勲他, 「CNR 法を適用した授業分析の結果と比較 : グアテマラと日本の小学校における録画授業を対象にして」, 日本科学教育学会研究会研究報告, vol.11 (7) (19970614) p.29-34

打ち合わせを十分行い、担任の希望をALTに伝えることに努め、以下のような点を意識しながら改善を行った。

○担任とALTが、テーマ別指導内容に事前に目を通してから打合せをし、ALTとのTTが円滑に行えるようにした。

○ALTと英語での会話を心がけ、担当教員が英語を学ぶモデルとして授業に取り組むように気を付けた。

「担任が、ネイティブスピーカーであるALTを活用する」というスタンスで今後も担任とALTの役割について研究していきたい。打ち合わせについては、言葉の問題や時間の問題など課題も多く、「担任とALTをつなぐ」コーディネーターの必要性も感じている。これらが次年度へ向けての課題である。

・異文化理解における地域人材の活用

異文化理解の内容の授業に日本語も英語も堪能な地域人材を活用した。授業内容は、「ハロウィン」「クリスマス」「バレンタイン」の三つで日本のそれと諸外国のものを比較させる授業を行った。

「ハロウィン」では、りんごにフォークを突き刺すというお菓子がなかったころのやり方を子ども達に体験させ、意欲的な活動につなげることができた。また「バレンタイン」では「義理チョコ」ということに注目させ、「義理」という日本文化について考えさせた。



図3 ハロウィンの授業

(4) 児童の興味関心等学習状況の変容の把握について

5年生（26名）を対象に4件法（1:まったく 2:少し 3:大体 4:たいへん）による英語活動についての質問紙調査を10月の初めと2ヶ月後の12月に実施し、意識の変容について調査を行った。（図4）どの項目も平均値は10月と12月とで有意差が認められず、よく類似していた。

中でも「楽しく学習することができた」「歌やゲームを楽しんで聞くことができるなど」平均3.7以上の高い数値が出た。



図4 児童の英語活動における意識調査の結果

また、brother 等 10 問の簡単なヒアリングテストを併せて行い、平均正答率を出すと、10 月が 5.86 で 12 月が 8.24 と危険率 5 % で有意に上昇し、ヒアリング力の向上が見られた。

(4) その他

・ICTの活用について

メディア教育開発センターの協力により、TV会議システムを活用した英語活動を行った。以下その概要について述べる。

TV会議システムについて

○操作性について

・PC操作に不慣れな担当でも十分使える、ユーザーインターフェースであった。

○映像・音声について

- ・若干音声がとぎれることもあったが、だいたい音質も安定して聞き取れ、児童がALTの発音を聞き取るのに十分なクオリティであった。
- ・音声のタイムラグが多少気になった。
- ・フリップの提示やフリーハンドでALTが書き込みを表示する場面があったが、この機能も児童の視覚に訴えるには効果的であった。



図5TV会議システムのALTと会話中の児童

○授業内容や方法について

- ・児童へ英語の発音のアウトプットを強制しないのは良いと思うが、インプットを更に多くして苦手な児童の不安をもっと軽減できたらと思った。
- ・役割演技やアクションを取り入れた学習は児童にも分かりやすかったようだ。
- ・指導内容を計画的に学習したことにより、児童のリスニングの力は向上したようだ。
- ・ALTの自国の紹介や自身の紹介は異文化理解にもなり興味深く学習できた。

- ・交流授業では「相手の思いを聞き取ろう。相手に自分の思いを伝えよう。」という思いが高まり、児童はととても意欲的に活動（会話）することができた。

○中学校との交流について

今年度は連携の在り方について協議する程度で具体的な事業はあまりできなかった。次年度は授業交流等積極的に行っていくつもりである。

3 本校における取り組みの成果等

一年間の取組で以下のような点について成果が得られた。

- ・子どもの英語活動に対する意欲の高いことが分かった。特にTV会議を使った交流授業では、非常に意欲的に取り組んだ。このことから、伝える相手が存在するような状況に子ども達をもっていく場の設定が重要であることが分かった。
- ・先進地域の視察や講師の助言により、一單元における活動過程を明確にすることができた。
- ・子ども達のヒアリング力にかなりの向上が見られた。
- ・外部講師（外国の人）による異文化理解の体験的な授業は子ども達の意欲を高め、異文化の理解度も大きく向上した。
- ・ICT活用のための教室等の環境整備ができた。特にCD、DVD等の再生時の音環境をよくするためにホームシアター用の音響システムを教室に導入し、子ども達にクリアーな発音が聞こえるよう配慮した。

そして、拠点校として積み上げてきたこれらの成果を市内の各校に広めていくことが次年度の課題である。

拠点校の事業実施報告書

拠点校名：浅口市立鴨方東小学校

1 年間スケジュールに基づいて実施した事業経過

時 期	取 組 内 容			
4月	Unit 1	あいさつ, 紹介	研究主題設定	研究計画 研究内容 研究組織
5月	Unit 2	時, 日, 週, 月, 季節	各学年部研究	
6月	Unit 3	体, 気分	各学年部研究	校内研究会6/29
7月	Unit 4	学校生活	各学年部研究	研究授業7/10, 18
8月	校内研修会8/3			
9月	Unit 5	色, 形, 衣服, 動物	研究授業9/14	校内研究会9/28
10月	Unit 6	スポーツ, アクション	各学年部研究	校内研修会(浅口市英語活動協議会研修会)10/9
11月	Unit 7	数, 計算	各学年部研究	資料整理
12月	Unit 8	行事, 食べ物	各学年部研究	
1月	Unit 9	家庭生活	資料整理	
2月	Unit 10	乗り物, 交通, 外出	研究のまとめ	反省
3月	Unit 11	買い物, まとめ		

2 本校における取り組みの具体的な内容

○教員の指導力の向上のための取組について

校内研修会において：講師を招聘し、次のような視点を明らかにした。学級担任が主体となる英語活動について、段階的に発展させる英語活動の組み立て方について、聞く活動 話す活動 自己表現活動 国際理解活動について、英語活動の現状について、英語活動の目標について、指導者の役割について、T Tの形態について

研究授業・校内研究会において：全ての学級担任が研究授業を行った。同学年における英語活動の課題を共通理解しやすくした。

○効果的な指導方法の工夫改善について

単元構成の工夫において：各単元の導入、終末時における学習活動（特に CIR time Impression time の位置付けを見直した。）

学習の流れ（一単位時間）の工夫において：学習の流れ、①Greeting time ②Song time

③Aim time ④Game time ⑤CIR time ⑥Impression time を、児童の興味・関心に沿って内容や順序を見直した。

○ALTや地域人材等の効果的な活用について

CIR（国際交流員）の活用を毎時間行った。

○児童の興味・関心等学習状況の変容の把握について

国立教育政策研究所の本校に対する質問紙調査を参照している。

○その他（ICTの効果的な活用等）

CIR time（国際交流員による出身国等の紹介等）において、校内LANを使って校内サーバーに保存してある映像資料をプロジェクターで投影した。

3 本校における取組の成果等

- ・学級担任が主体となる英語活動についての共通理解が進んだ。
- ・児童に無理のない単元構成（段階的に発展させる英語活動）の仕方が明らかになった。
- ・CIR time の位置付けや、Impression time の活動内容を児童の興味・関心に沿って変えることができた。
- ・Song time や Aim time において、歌やチャンツを繰り返し行うことによって、学習する英語表現を自然に身に付けることができた。

拠点校の事業実施報告書

拠点校名： 岡山県久米郡美咲町立柵原東小学校

1 年間スケジュールに基づいて実施した主な事業経過

月日	実施内容
6/ 7	6年生授業公開およびそれに関わる授業反省 外部講師による英語指導方法の実践指導講評
6/上旬	英語活動についての児童対象アンケート（1回目）の実施と分析
6/20	低学年授業公開と5・6年生に関わる事業の推進について
6/26	5年生授業公開およびそれに関わる授業反省 県総合教育センター指導主事による指導方法の工夫改善についての指導講評
7/31	柵原中学校英語指導者を迎えて英語授業に関わる情報交流
8/9~10	県総合教育センター等の英語研修への参加
8/28	外部講師による英語指導方法の実践指導講評
10/25	4年生授業公開と5・6年生に関わる事業の推進について 外部講師による英語指導方法の実践指導講評
11/28	3年生授業公開と5・6年生に関わる事業の推進について 外部講師による英語指導方法の実践指導講評
11/30	先進校視察（枚方・東香里小）
1/24	拠点校中間研究発表会
1/25	先進校視察（大牟田・明治小）
2/中旬	英語活動についての児童対象アンケートの実施（2回目）と分析

2 本校における取組の具体的な内容

- 教員の指導力の向上のための取組について
資料収集調査 先進校視察 外部講師の支援による校内研修
- 効果的な指導方法の工夫改善について
全学級の公開授業 共通共有の教材・教具の整備と研究
年間指導計画（国際理解活動に関することも含む）の見直し
研究過程での課題点の分析
- A L Tや地域人材等の効果的な活用について
A L Tや外部講師による教員への英会話指導 国際理解活動の題材設定
- 児童の興味・関心等学習状況の変容の把握
英語活動に関する児童へのアンケート調査による学習状況の変容の把握と分析
- その他
英語活動や学習について、小中学校の関連や連携のあり方についての研究

3 本校における取組の成果等

本校の英語活動としては、低学年では、ゲームを主体として簡単な英単語（数字や動物の名前や鳴き声など）を友達と一緒に発音したり簡単な日常会話をくり返したりする単元設定で、英語にふれる楽しさを味わうことができた。中学年では、あいさつも含めて、自分が知りたいことを相手に尋ねたり質問に答えたりする活動（誕生月を尋ねることや店頭で注文する会話など）を通して、コミュニケーション自体の楽しさを感じることができた。そして、それを基にして本事業では系統的に研究を推進し、高学年では、発達段階を踏まえ、自分のプロフィールに関すること（自分の趣味や将来の夢についてなど）を友達に話したり、それに対してコメントをしたりする活動を設定して、自分や相手の考えを、自分なりの表現でお互いに伝え合えるという活動ができた。

本校の英語活動は、英語という言葉を使用することで、コミュニケーションにおける意思伝達手段としての言葉の大切さに気づき、また、それに加えて態度・表情・動きも総合的に駆使することで、より相手とつながり合えることを体感できる貴重な機会となった。